

～二条城の価値を活かし
未来を創造するために～
(提案)

平成28年9月16日

二条城の価値を活かし未来を創造する会 委員名簿

職名等	委員
元離宮二条城事務所特別顧問	デービッド・アトキンソン
(公財)京都文化交流コンベンションビューロー 国際観光コンベンション部長	赤星 周平
一級建築士事務所スーク創生事務所代表	大島 祥子
株式会社 J T B 西日本京都支店副支店長	草刈 徹
株式会社京都新聞社代表取締役社長	永島 宣彦
京都市バスおもてなしコンシェルジュ	孫 群姍
京都商工会議所観光産業特別委員会委員長	田中 誠二
N H K 京都放送局長	寺井 友秀
公益財団法人有斐斎 弘道館 館長	濱崎 加奈子
京都市認定通訳ガイド（受講生）	向井 理
株式会社リーフ・パブリケーションズ 編集制作局編集制作部副編集長	吉田 美也子
京都市 文化観光連携・二条城プロデューサー	西村 隆 （座長）

順不同（敬称略）

まえがき

世界遺産・二条城は、徳川家康による築城以来400年以上にわたって、日本の歴史の重要な舞台となってきた大切な文化遺産です。とりわけ、長く続いた戦国の世が終わり、270年近くの平和な時代の幕開け、そして大政奉還の舞台となり、我が国が近代国家への歩みを始めた「平和の象徴」でもあります。

私たちは、二条城が、世界の人々が平和のうちに自由に集い、文化交流を行う「世界文化自由都市・京都」の中核としての機能を担い、「日本の歴史・文化の玄関口」として文化と経済の発展に大きく寄与すべきであると考えます。

そのためには、今後のあるべき方向として、二条城の文化財としての価値をしっかりと継承しつつ、それに磨きをかけ、市民はもとより国内外の方々が、日本の歴史文化を体感できる場として、同時に、広く文化交流を行う場として積極的に活用することが求められます。

この提案は、国の文化財行政が保存優先から観光客目線での理解促進、そして活用へと転換(明日の日本を支える観光ビジョン 平成28年3月30日)したことを受け、来年、大政奉還150周年という節目を迎えるにあたって、二条城の積極的な活用策を委員の知恵を結集し、熱い思いを込めてまとめたものです。今後の二条城運営に役立てていただき、より多くの提案が実現することを心から願っています。

提案の主旨

- ① 国宝・世界遺産である二条城の価値を活かし、日本文化の理解促進と後世への継承の拠点とする
- ② イベントや展示会、多彩な文化事業などでの積極的な活用により、二条城の価値の発信と文化財の良好な保存・再生を実現する
- ③ 日本人が大切にしてきた暮らしの美学・生き方の哲学を体感する貴重な空間を活かして、歴史を学び、ほんものの文化を体験できる施設として活用し、市民はもとより多くの人々に愛され、周辺地域活性化の核となる機能を目指す
- ④ 日本を代表する文化財として文化財保護と観光ニーズを両立させ、全国の文化財の保存・活用の先駆的な取組となることを目指し、国や地域経済の発展に貢献する
- ⑤ 時代を超えた空間を活かし、伝統文化、伝統芸能、匠の技、伝統産業の継承と発展に寄与する
- ⑥ 京都に全面的に移転する文化庁の迎賓機能など、その一翼を担う

活用方策

1 学びの場，文化・観光資源 としての満足度向上策

- ① 歴史や文化財を分かりやすく説明する機能の強化
(案内板の充実，ガイドブックの作成，ガイドスタッフの配置 など)
- ② 外国人に対する多言語による日本の歴史・文化などに関する案内の充実
(二条城観覧のポイントをガイド)
- ③ 江戸時代の歴史的な出来事の再現
(華やかな寛永時代の行幸行列，徳川和子の入内，大政奉還)
- ④ 小中学生対象の二条城探検会など市民の歴史学習の場としての活用
- ⑤ 二の丸御殿から庭園の眺めを楽しむための障子の一部開放
- ⑥ 運営スタッフの応対や服装などおもてなしコンセプトの統一と向上

- ⑦ 着物を着て二条城を観覧するイベントや伝統産業・文化の振興にも寄与する貸衣装サービスの実施
- ⑧ ベンチの増設をはじめ休憩ゾーンの整備拡充
- ⑨ 一般観覧者向けの飲食スペースの検討
- ⑩ 歩きにくい砂利道の一部舗装化
- ⑪ 番所の案内所としての活用
- ⑫ 喫煙場所の検討
- ⑬ 早朝公開や夜間ライトアップなど新たな魅力の発信

2 MICE活用の促進策

- ① 国公賓や京都市の賓客への迎賓機能強化
- ② 全国，海外に対する二条城MICEプランのプロモーション活動
- ③ ユニークベニューとして魅力的で多彩なメニューの構築
(オペラ，歌舞伎，演奏会，展示会，現代アートなど)
- ④ 早朝観光の受入れなど，対象を限定した多様な特別プログラムの開発
- ⑤ 御殿（二の丸・本丸）のMICE活用

- ⑥ 飲食，火気・水の利用制限の見直し
(監視スタッフ配置義務付け，保証金・参加者名簿提出，付帯設備の整備など)
- ⑦ 雨天時の対応ができる仮設設備の充実
- ⑧ 飲食やイベントが可能で雨天時にも対応できる多機能施設の整備検討
(大正天皇御大典時の大饗宴場の復元 等)
- ⑨ MICE利用(貸切)と，一般観覧との時間・エリアの調整方法の工夫

3 周辺地域との連携策

- ① 周辺住民や市民に愛されるための活用
(市民向けイベント, 市民活動の場としての活用)
- ② 二条城を核とする周辺地域活性化の推進
(地域の催し, 歴史文化スポット, 工房・体験施設, 飲食店等との連携)
- ③ 二条城外周の景観向上と憩える空間の創出
(生垣を低くし, ベンチを設置)
- ④ 都心の二条城と文化交流ゾーン岡崎を繋ぐ文化観光ルートの形成
(地下鉄をベースに, 京都発祥のベロタクシーを移動ツールとして活用)
- ⑤ 歴史的につながりが深い御所や周辺の二条陣屋, 神泉苑との連携の促進
- ⑥ 南門, 西門の橋を設置し, 周辺への人の流れと防災対策に活用

4 伝統文化，芸能，産業 との連携策

- ① 市民が支える「生きた文化遺産」としての積極活用
- ② お茶会，生け花，香道などの文化事業，様々な市民活動の場として活用
- ③ 能，歌舞伎など伝統芸能の舞台としての活用
- ④ 京都の伝統産業と連携したお土産や限定ノベルティグッズの開発と販売

5 文化財の補修，美装化， 維持管理に要する経費の確保策

① 入城料制度の見直し

(城内への入城，御殿の見学，ガイド案内など入城形態に見合った設定を行い，入城しやすく，かつ全体として収入の増加に繋がる制度を検討する)

② M I C E 利用料の多様化

(価値の高いMICEメニューの創設や参加人数の考慮など，応分の料金設定を行い，必要な経費の確保に繋げる)

③ M I C E 利用の案内や入城券に，使用料・入城料収入によって文化財の良好な保存・再生が支えられていることを明記する

④ 天守閣復元といった新しい二条城の価値を創造する目標を設定し，CGで再現するなど，目に見える形で強く募金の協力を募る

⑤ 特典メニューを期間限定で提供し事業スポンサーを募るなど，民間企業とのタイアップの推進

6 その他

- ① 提案はすぐに実施可能なものから、将来の夢として掲げたものまで多岐にわたっているため、財源の確保や推進体制も考慮し、年次計画を立て、できる限り目標数値、指標を掲げ、積極的に取り組んでほしい
- ② 多様な活用を実現していくためには所有者である京都市から文化庁に対する積極的な提案、アプローチが不可欠である
- ③ 提案実現のためには、国をはじめ関係機関、関係団体、企業、市民の支援と協力が不可欠である
- ④ 二条城で開催される事業や催しをメディアに対し積極的に発信する